

平成20年 4月10日

平成19年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 生活・健康系(技術)教育講座

氏 名 伊 藤 陽 介

プロジェクトの名称	附属学校における教育実践に基づく学部授業内容の開発	配分 予算額	903,000 円
プロジェクトの概要	平成16年度に開発された教育実践学の中核とする教員養成を行うためのコア・カリキュラムが平成17年度学校教育学部入学生より適用された。本カリキュラムの中核を担う教育実践コア科目として、初等中等教科教育実践基礎演習、初等中等教科教育実践Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲが開設され、平成19年度においてすべて開講されている。これらの授業科目では、学習指導要領を基盤とする教科内容の理解、授業構成や指導方法など教師として必要な実践的指導力を育成することを目的とし、教科教育と教科専門を担当する大学教員と附属学校教員が協働して授業を行っている。 本プロジェクトでは、教育実践コア科目(技術科教育コース)の授業内容にある「学習内容に適応する教材の開発・選択方法とそれを利用した授業構成の立案方法」を取り扱う。とくに、附属中学校における教育実践に基づいて中学校・技術・家庭科(技術分野)の学習内容「情報とコンピュータ」と対応する学部授業内容の開発を目的としている。 中学校技術・家庭科(技術分野)で活用できる教材の開発、並びに、授業構成を附属中学校における研究授業に基づいて評価し、その成果を学校教育学部の授業内容に含める。具体的な教材例として技術的な発達の著しいコンピュータを内蔵したロボット教材を取り上げ、より効果的な学習をねらっている。		
成果の概要	本プロジェクトは、鳴門教育大学と同附属中学校が連携し、以下の手順で実施した。 (1) 本プロジェクトチームのメンバーを中心として、教育実践コア科目(技術科教育コース)の学部授業で取り扱う授業内容を検討した。 (2) 教育実践コア科目：初等中等教科教育実践Ⅲの授業内容に含まれる「情報の科学的な理解」に関する模擬授業実践を想定し、「情報とコンピュータ」の学習内容と対応する学部授業内容を開発した。 (4) 具体的な教育事例としてコンピュータを内蔵したロボット教材を取り上げ、中学校における授業構成を立案した。 (5) 開発した授業構成を附属中学校における研究授業として平成19年11月～平成20年1月にかけて実践し、その教育的な効果を評価するとともに、項目(2)に示した学部授業内容にある模擬授業実践に応用する学部授業内容を立案した。 また、本プロジェクトの成果は、以下の研究発表等を通じて公表された。 (1) 伊藤 陽介、森 普範、菊地 章、大泉 計：「プログラムと計測・制御」のためのロボット学習材の開発と実践、日本産業技術教育学会誌、第49巻、第3号、pp.213-221、2007。 (2) 伊藤 陽介、天野 仁美、大泉 計、岩山 敦志：テキスト型プログラム言語と自律型ロボット教材を用いた計測・制御学習、日本産業技術教育学会第23回情報分科会研究発表会講演論文集、pp.57-60、2008。		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
 2. 概要については、800字程度にまとめること。
 3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
 4. なるべくパソコン等で作成願います。